

京都大学 工学部 物理工学科

○受験に向けて行った各教科の学習内容

国語 古文漢文の基礎を固め、確実に得点できる部分を作ることで点数を安定させました。特に二次試験でも問われる古文の単語を確実に覚えることを中心に学習を進めました。大きい差がつく教科ではなかったため、古文漢文という勉強すれば確実に得点できる部分のみ勉強して、現代文の対策は学校の直前講習以外での勉強はしませんでした。

数学 数学は得意教科ではあったものの計算ミス等のケアレスミスが頻発していました。数学に時間を取るよりも他教科に時間を使いたかったので、数学の勉強は学校での演習時間を中心に問題を解くことを繰り返し、自分のミスしやすい部分をチェックすることで本番の試験で優先的に見直しすべき部分を明確化すること程度に留めました。直前期には『京大数学 25ヶ年』を使い、問題を見て解答の導き方を考え答えを見る、ということを繰り返すことで発想等にかかる時間を減らすことに注力し、計算や見直しに時間を回せるようにすることで、自分の計算の弱さを克服するのではなく得意な部分でカバーできるようにしました。

理科 理科の対策を本格的に行なったのは共通テスト後でした。二次試験に近いこともあり、過去問を解いても合格点に到底及ばない点数を取ったり、基礎的な公式や考え方が抜けていたりすることに焦りを感じ、共通テスト以降はほとんどの時間を理科だけに使うことになりました。その時は物理・化学の赤本を解き問題形式や時間配分に慣れるとともに、自分が解けなくなりやすい分野を確認し、教科書や問題集を中心に分野全体の復習を行いました。また苦手科目だった化学は基礎知識が抜けている分野が多かったため、赤本を解くのをやめて、先に教科書を使って全体の知識等を総復習してから重要問題集などの問題集を解き、最後に赤本を解く、という流れで基礎から発展まで一気に勉強しました。

社会 社会は地理を使いました。地理の対策は授業や定期テストの勉強を中心に言い、自宅での学習は地理のゲームをしたり暇な時に教科書を眺めたりするなど、息抜きとして行いました。

英語 英語は共通テストまでの間は単語を覚えることだけに集中していました。共通テスト後は長文読解の対策用に市販の参考書を購入し、文構造の把握ができるようにしました。英作文では先生に答案の採点をしてもらい、ミスの多い部分を知ること、本番の作文でもミスに気づくことができました。

○最後に

勉強は時間ではなく質にこだわった方がいいと思います。長時間勉強したことで悦に浸るより、毎日寝る前に何ができるようになったか言えるぐらい確実に成長した部分を作ることに重点を置いてください。

京都大学 工学部 建築学科

私が志望大学と学部を決めたのはおそらく2年の春でした。そのときから志望を変えずに最後まで通したのですが、だからといって迷わなかったわけではありません。2年のサイエンスの時間で行った研究の分野に面白さを感じ、その分野と最初に決めた志望とで揺れたこともありました。自分がしたいことは何かを考えた末、最初に決めた通りの進路に行くことに決めました。それが2年の冬ぐらいだったので、実質そのタイミングで進路決定したと言えるかもしれません。

まず勉強を始めるなら計画を立てた方がいいと思います。私はその点が疎かだったので、具体的に勉強する時間を決めるようになってからは、集中力が上がりました。区切りが見えていてやる気が出たのだと思います。ざっくりした勉強計画があるだけでも効率が上がると思います。

勉強以外では、睡眠を大事にしており、私は夜の11時過ぎに寝ていました。日中眠くはならないが夜には眠たくなる、ぐらいの睡眠時間を意識していました。受験生は勉強しかやることがないので、せめて睡眠ぐらいはしっかり取るようにしたほうが良いと思います。

最後に、模試の苦労話をしたいと思います。私が苦戦したのは地理でした。初回の地理の模試でとても良い点数を取れ、自分は地理が得意なんだと安心していました。それが怠慢に繋がり、次の模試でいまひとつな点をとってしまいました。初回の模試は学校の定期テスト直後で、短期記憶が生きていたのが幸いして良い点を取れただけだったのです。これはまずいと感じもっと長期的なスケールの勉強をしなくてはと思い、毎日少しずつ地理の勉強をするようになりました。すぐには結果が出ず不安に感じていましたが、模試の回数を重ねるうちに点数が漸増していきました。模試は結果だけが大事なのではなく、その後の反省も重要と散々言われてきましたが、まさに身をもって体感しました。たとえ点数が良くてもそれが偶然かはたまた努力の賜物かを是非振り返ってみてください。

京都大学 工学部 理工化学科

○最後まで信じられる志望動機を設定しよう

私が京都大学を意識した時期は高校1年の頃です。大学の校風に憧れ、「こんな大学に行けたらいいな」と考えておりました。

本気で目指そうと考えたのは高校2年の夏頃です。当時、大学について調べる機会があり、京都大学には公式のジャグリングサークルがあることを知りました。私はマジック部に所属していましたが、自分自身が京都大学の構内でジャグリングする姿を想像したことがきっかけで、何としてでもこの姿を実現したいと考えました。

受験において最も重要な点は、どんなにつらいと思ってもやり通せる心だと思います。特に高校3年の後半は本当に厳しく、模試の結果が悪い場合など、本当に心が折れそうになります。それでも最後までやり通すためには抛り所とできる大きなモチベーションが必要です。モチベーションは学業や将来の仕事でも良いですし、私のようにジャグリングでも「あり」だと思います。

○勉強は計画的に

高校1年次～高校2年次に各教科の基礎固めを行いました。ある程度以上の難関大学を目指すためには志望大学の対策に1年はどうしても必要になると考え、遅くとも高校2年の冬には試験範囲を一通り把握するように勉強を進めました。

高校3年次は、過去問（25年分）や、冠模試とその過去問を1～2週間ごとに解き、徹底した志望校対策を行いました。問題を解いた後は間違いと向き合い、次回どうすれば同じ間違いをしないかを考え、その対策を問題集で実践するように心がけていました（これが本当に大変でしたが、やる価値はあると思います）。

自身の学力を志望校が要求する到達レベルまで届かせるために一番大事なことは、到達すべき状態（合格者平均点）と現状とのギャップを常に把握することだと考えます。まず、受験する大学はできる限り早く決めましょう。大学によって受験の形式も内容も全然違うので、早めに大学を決め、そこから逆算して何の勉強をするのか決めていくことが重要だと考えます。

がんばってください。

大阪大学 基礎工学部 化学応用科学科

○進路決定について

僕は化学に興味があり、大学でも化学を専攻したいと考えていた。化学を学べる学部を調べていくうちに、物質工学という学問に興味を持ち始め、これが学べる大学を選んだ。

○受験勉強について

高2までの間も少しは勉強していたが、本格的に受験勉強を始めたのは高3の4月からだった。受験勉強を進める中で、僕が最も意識したことは、基礎をしっかり固めることだった。

まず、4月から夏休み明けにかけては、2次試験で必要な科目の基礎固めに専念した。英語は主に英単語の暗記と英語長文の音読、数学・化学・物理は問題集の問題を繰り返し解いた。

9月からは、応用問題や過去問の演習、そして、共通テストで必要な国語、地理の対策を始めた。応用問題演習では、これまでに固めた基礎をどう使っていけばよいかを考えながら取り組むとよいと思う。また、応用問題を解く中で、苦手な分野あるいは抜けていそうな知識があれば、その単元の基礎に必ず戻って確認するようにしていた。

○苦勞したこと、悩んだこととその解決策

勉強をし続けていると、勉強が嫌になって、やる気がなくなる時が来る。そういうときは、無理せず休むことが大事だと思う。

○後輩へのアドバイス

受験勉強では、上手くいかないことの方が多く、勉強するのが嫌になることが多々あると思います。また、勉強を始める時期が遅く、間に合わないのではないかと不安になることもあると思います。それでも、諦めず勉強すれば、必ず伸びる時が来ます。僕の場合、苦手だった地理が共通テスト直前期になって伸び始め、本番では過去最高点をとることが出来ました。それだけでなく、諦めずに勉強することは、試験本番の「自分はこれだけやってきたから大丈夫」という大きな自信につながります。頑張ってください！

大阪公立大学 医学部 リハビリテーション学科 作業療法学専攻

進路の決定について、高校に入る時からリハビリ科のある大学に行くことは決めていたのですが、最終的に志望校を決めたのは3年生の7月頃でした。もともと私立大学に進むつもりでしたが、先生にもったいないのではと言われ少し迷っていたこともあり、後悔を残さないためにも学校推薦で受けることを決めました。

受験勉強の方法について、私は塾には行っておらず、学校に残って勉強していました。参考書は英語と数学の共テ対策のものを買って、他は学校のものを使っていて、周りが賢い人ばかりだったので色々と教えてもらっていました。面接の練習は、10月に入ってからです。個人と集団の2つがあり、何が聞かれるかを想定して、担当の先生や友達と何度も練習をくりかえしていました。どれだけ練習しても本番では緊張するので、練習で完璧といえるくらいまでやったほうがいいと思います。

部活や学校生活との両立について、私は書道部に所属していて、生徒会にも入っていました。学校が家から遠く、遅いときは家に帰ると9時前でした。疲れもたまっていて、やる気がおきないこともあり勉強時間はほかの人に比べて短かったとは思いますが、提出物だけは期限内に出そうと頑張っていました。やりたいことがたくさんあって忙しい人はとりあえず提出物をやることをおすすめします。面倒に感じますが、復習になるし、成績を維持するためにもやっておいて損はないと思います。

先輩へのアドバイスが2つあります。1つ目は一緒に勉強できる友達をつくることです。私が合格できたのは一緒に勉強していた友達のおかげです。息抜きにしゃべったり、わからない問題を教えてもらったり、勉強面でも精神面でも支えてもらっていました。2つ目は、学校に行くことです。塾などに行くために学校を欠席する人もいるのですが、学校に行くことで、規則正しい生活を送り、友達と会って話すことで気持ちが楽になることもあります。

今しかできないことを全力で楽しんでください！

近畿大学 情報学部 情報学科

私の進路決定はかなり遅い方だったと思います。はじめは自分が何をしたいのかよく分からなかったため、春休みなどにたくさんのオープンキャンパスに行き、自分は何に興味があるのかを探りました。そして高3の夏頃、情報学に興味があるかも？とやんわり思い始め、ある国公立大学の工学部情報工学科を志望校としました。しかし、その大学の説明会で話を聞くうちに、自分が学びたい情報学とは少し違うかもしれないと感じ始めました。私には少しでも就職で有利になれる大学に行きたいという考えがあったため、はじめは国公立大学を志望していましたが、就職での有利さや大学名、偏差値よりも、自分が学びたいことを学ぶということのほうが大切だと思い、高3の秋頃に第1志望を近畿大学情報学部に変えました。

私が受験生活の中でこれをやっておいて良かったと思うのは、スケジュール帳を書くことです。受験勉強をするうえで計画を立てることは本当に大事だと思います。私の場合は、まず大きな目安をドンとつけて、そこから細かく割り振っていくというやり方でした。例えば、高3の4月には「夏休みまでに基礎を固めるぞ！そのためには4月5月6月7月はそれぞれ何をどこまでしよう！」という流れで大まかな計画を立てて、それをもとに毎週月曜日に1週間で何をするかを決め、さらに毎朝学校に来てから今日は何時から何時まで何をすると分刻みで計画を立てていました。特に、勉強を始める時間をキッチリ決めておくことはとても大事です！

最後に、私は模試の判定は最初から最後までずーっとEでしたが、ちゃんと第1志望に受かったし、しかも特待まで取れました。模試の問題が全然解けなくても、志望校の過去問を解けるようになったら多分オールオッケーだと思います！これからしんどいことも多くなると思うけど、悔いのないよう頑張ってください。応援しています！

京都府立大学 農学食科学部 農学生命科学科

○毎日の勉強

私は部活動が忙しく十分に勉強の時間が取れなかったのですが、そんな環境であったため集中して取り組む習慣がついたと思います。塾に通っていなかったので家での学習は毎日の授業の復習を中心にしていました。まずは自分に必要なことを考えてその日のやることを決めてリストを作っていました。時間がなく取り組めなかった内容は、土日の部活が終わってから取り組むようにしていました。

○部活動引退後の受験勉強(夏休み)

ある国立大を受けようかと思っていたので、その大学の過去問演習に取り組んでいました。定期テストなどで基礎を作っておくと忘れてしまっても思い出すという作業だけで済むので、過去問の演習がスムーズにできるようにするためにも1、2年生の頃から定期テストにしっかり取り組んでいると良いと思います。

○学校推薦

夏休み頃から志望理由書などの準備を始めました。評定は取れていたのですが、総合問題と面接試験の対策に先生方の協力をいただいて取り組んでいました。

○進路決定について

私はどうしてもここに行きたいと思った大学がなかったので、オープンキャンパスに参加してみて3年生の夏に決めました。国公立大学に行こうと思っていたのでその可能性を広げるためにも学校推薦を受験しようと思いました。推薦は倍率が高いので照準は国公立の一般入試に合わせていました。

○反省点

少しでも勉強しようとして気づけば2時になっていることもあり、毎日睡眠不足が続いていました。効率を良くするには、勉強だけでなくしっかりとした休養も大切だと思います。また、私は勉強と部活しかしていなかったのですが、他にも自分の楽しめる趣味などがあれば心に余裕ができると思います。

○最後に

受験は日々の積み重ねだと思います。毎日をどのように活用するか次第で何年後かの自分が大きく変わってくると思います。

高校生活はすごく忙しいと思いますが、目指せるものがあるということはとても貴重なことだと思います。自分自身が振り返ってみて「よくやった。」と胸を張って言えるくらい打ち込んでみてください。

和歌山大学 システム工学部 システム工学科

僕は、自主学習が得意なタイプではなく、塾や予備校にも通っていなかったので、授業を聞くということに力を入れていました。

学校の授業は自分のペースでできない分、効率的でないと思われがちです。しかし、受験生になり自主学習が増える中で、授業はとても貴重な時間だと思っています。自主学習では、読んで考えるということが必要になりますが、授業では、聞いて考えるということが必要になります。家で一生懸命勉強して、授業中にも自分のやりたい参考書を解くというようなことをしていると、集中力は続きにくいです。授業と自主学習どちらも取り組み、聞く学習と読む学習両方を効率的に取り入れることで、より長く勉強に集中できると思います。

授業を受ける上で重要なことは、分かっているでも聞くことだと思います。先生は、授業で同じことを何度も言うことがあります。僕は、そのような話こそ注意して全部聞くようにしていました。何度も話すのはそれが大事なことからです。そのような話をしっかり聞くことにより、大切な部分が強く印象に残るため、他の発展的な内容も理解しやすくなります。実際、ある科目の先生で、もう分かっているようなことを何度も言う、小学校の先生のような先生がおられました。授業の進度も遅く、全ての授業内容が終わるのも他の科目と比べて一番遅かったのですが、その先生のおかげでその科目は自分の得意科目となり、共通テストでも一番いい点が取れました。

受験勉強は自主学習のイメージが強いですが、自分は、このように授業を一生懸命聞いたことで大学受験を乗り越えることができたと思います。

京都工芸繊維大学 工芸科学部 物質・材料科学域

応用化学課程

○志望校決定の時期とポイント

私が志望校を決めたのは、高校3年生の11月です。元々別の大学を志望していたので、受験に必要な科目がガラッと変わり、直前期での志望校の変更は本当にあせりました。本番直前まで第一志望を貫くことは受験において一番大切なことですが、もし志望校の変更を考えているという人は、志望校の受験形式への対応を早めにしておくのも一つの手であると思います。実際私は、共通テストの使用科目が文系科目のみかつ配点が低い形式から、共通テスト全科目必須かつ配点率が100%の形式へというかなりの変更でしたが、まだ2か月を残していたため間に合ったのだと思います。本当に受験する大学をなるべく早くに定めておくべきだと思います。

○共通テストの必勝法

〈英語〉

LEAPをとにかく覚える。リーディングは各長文の解く時間配分を決めて過去問、予想問題をひたすら解く。リスニングは本番一日目の最終科目なので、疲れた状態でどれだけ集中できるかが重要。寝る前の疲れているときにやるようにしていた。

〈理系科目〉

早めに基本を押さえて、ひたすら予想問題や過去問で共通テストの形式に慣れる。演習で間違えたところを直して自分の穴を見つける、そして演習、の繰り返しがおすすめ。

〈国語〉

日々の授業の予習で現代語訳や意味調べをし、自分の語彙を増やす。小テストはいいペーパーメーカーなので、毎回満点を取る気持ちで全力で頭に叩き込む。他の教科と同様、過去問などで演習を重ね、早く正確に問題を解くことに慣れる。

ここまで私なりのポイントを述べてきましたが、あくまで一個人の意見です。色々な人の意見を聞いて、自分に合う攻略法を見つけてください。最後に、高校生活も受験もあつという間に終わってしまうものです。本当に、あつという間でした。「時間を制する者は受験を制す。」とよく言われますが、部活や学校行事を全力でやり、勉強も成果を上げるにはやはり学校の授業で頭に入れて、どれだけ空き時間を作れるかにかかっていると思います。あの時もう少しああしていればよかったと後悔しないように、今何をすべきか、しっかり考えて過ごしてください。応援しています！

同志社大学 法学部 政治学科

○進路決定の時期と方法

私は、1年から2年の間は国立の大学を志望していましたが、数学が伸び悩んでいたこともあり、3年になって志望を私立の同志社大学に切り替えました。

私は、政治学に興味があり、それに特化した学部があると知り、第一志望に決めました。

○受験に向けての学習内容

私が本格的に受験勉強に取り組み始めたのは、3年になってからでした。

受験に取り組むうえで重要なのは、志望校対策を徹底することだと思います。特に私立大学だと、各大学・学部ごとに出题傾向や形式が違うので、過去問演習を早めに解いて、対策を考えることをお勧めします。

○使用した参考書や問題集

日本史は漫画を何度も読んで流れを抑えてから、東進の「日本史B 一問一答」を2日で1周できるくらいのペースで取り組んでいました。

英語は、「LEAP」と「速読英熟語」という熟語集を使っていました。「LEAP」だけでは、単語力が補えなかったため、過去問で分からなかった単語はチェックして、覚えるという工夫もしていました。同志社大学は、他の大学と比べて長文に時間がかかるので、語彙力を高めることが大事だと思います。

○学習面で悩んだこと、アドバイスなど

私は、模試で第一志望の大学の判定でE判定しかとったことがありませんでした。しかし、自分の勉強方法を信じ、努力し続けたことで、合格を勝ち取ることができたと思います。参考書や自分の勉強のスタイルをあれこれと変えず、最後まで貫き通すことが合格につながると思います。

○その他

私は、部活でのキャプテンや、文化祭のクラス長をつとめていました。高校生活を楽しくつつ、受験勉強の時間を十分に確保することに不安はありましたが、メリハリをつけて取り組むことで、無駄のない充実した生活を送ることが出来ました。また、受験期に行事に夢中になったり、楽しみを持ったりすることで、良いリフレッシュになり、勉強への集中力も上がったと思います。

振り返るとあっという間の1年だったので、悔いが残らないように頑張ってください。応援しています。